

## 2023年度・公式規則変更予定報

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会  
競技規則委員会



公益社団法人日本アメリカンフットボール協会競技規則委員会では、現在2023年秋季公式戦から適用される公式規則の変更作業を実施中です。

この「2023年度・公式規則変更予定報」は、本年の公式規則変更を予定している主要項目および主な編集上の変更項目に関して概要を説明し、各競技団体の早めの対応を可能にするために発行されるものです。本予定報に記載している内容は、今後の作業により追加あるいは変更の可能性があります。

\*正式には本年7月上旬に発表予定の「2023年度・公式規則変更内容・決定報」で公示いたします。

注\*: 当委員会は、NCAA(全米大学体育協会)の競技規則変更内容をベースに変更作業を行っています。

NCAAでは、4月下旬に規則変更内容が決定され、その後NCAAの競技規則書発行時に、編集上の変更項目等が織り込まれます。本予定報は現時点の情報をもとに、競技規則委員会で決定されたものです。決定報では、改訂後のNCAA競技規則書を反映し、競技規則委員会が決定したものを公示いたします。

### [1]2023年度・公式規則変更予定主要項目

2023年度の公式規則変更として予定している主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の( )内の英数字は、この変更が行われる予定の公式規則・公式規則解説書における主たる「篇章一条」を表します。

#### (1) 必要な装具の規格の変更

☆ 従来、パンツおよびニーパッドは膝を覆っていることが求められ、ソックスの長さについての規定はなかった。

★ 本年より、パンツおよびニーパッドは膝を覆っていることが推奨され、ソックスあるいはレッグカバーは、靴からパンツの最下部まで全域を覆っていなければならないと規定される。ソックスあるいはレッグカバーは重ねて着用することが許され、同一チームのプレイヤーは、同スタイル、同一色を着用しなければならない。(例外: 負傷部の保護あるいは負傷の予防のための、下腿に着用する改造されていないニープレス、テープまたはバンデージ。裸足のキッカー。)

本項目は2022年度・公式規則変更予定報に記載されたが、昨年度は実施が見送られた。

(1-4-4-d および h 変更)

#### (2) ドローンの使用に関するポリシーの追加

☆ 従来、プレー場内でのドローンの使用に関する規定はなかった。

★ 本年より、登録選手がプレー場内にいるときに、フィールドおよびチームエリアの上空にドローンを飛

行させることは禁止となる。リミット ラインの外側での飛行については、試合運営責任者(あるいは運営団体の規定)により、ドローンの使用が決定される。これには関連法規等に従うことを含む。

(1-4-11-d 追加)

### (3) 前後半の間の休止時間(ハーフタイム)に関する規定の追加

☆ 従来、前後半の間の休止時間(ハーフタイム)についてはその長さが規定されていたが、その時間配分に関する規定はなかった。

★ 本年より、ハーフタイムについて、以下が規定される。ハーフタイムの時間配分は試合運営責任者によって決定される。ただし、後半のキック オフの 3 分前までには登録選手がフィールドを使用できるようにしなければならない。ハーフタイムに登録選手がプレー場内に立ち入る時は、そのチームのスタッフもフィールドにいなければならない。フィールドが使用可能となる前にキッカーあるいは他の登録選手がプレー場内に立ち入る場合、その活動はチーム エリア内に限定される。すべてのチーム関係者は、予定された催しを尊重しなければならない。フィールドが使用可能となるまでは、キックの練習はキッキング ネットを使用しなければならない。前後半の休止時間中に、試合運営責任者によって決定された、選手が利用可能となる時間は、フィールドは 30 ヤード 地点から”L 字型”に区切られることが推奨される。(参照:付録 D)

(3-2-1-c 変更)

### (4) 節の延長の規定の変更

☆ 従来、時間終了となったダウンで、ライブ ボール中の反則に対する罰則が受諾された場合、オフセティング ファウルがあった場合、審判員が不用意なホイッスルを吹いた場合、または審判員がボールデッドのシグナルを誤って出した場合は、計時しないダウンとして節の延長を行っていた。

★ 本年より、節の延長は第 2 節および第 4 節のみで行い、第 1 節および第 3 節では節は延長されず、罰則の施行は次の節に持ち越される。

(3-2-3-a 変更)

### (5) 計時の開始と停止の規定の変更—第1ダウンが与えられた場合

☆ 従来、A チームに第 1 ダウンが与えられた場合、ゲーム クロックの計時は停止された。

★ 本年より、前後半の残り 2 分未満を除き、A チームに第 1 ダウンが与えられた場合でも、ゲーム クロックの計時は停止されない。前後半 2 分未満では、従来通り、計時停止となる。

(3-3-2-e-1 変更)

### (6) 連続したチーム タイムアウトの規定の変更

☆ 従来、デッド ボール中に、複数のチーム タイムアウトを取ることは認められていた。

★ 本年より、ひとつのデッド ボール中に各チームが取ることができるチーム タイムアウトは 1 回のみとなる。

(3-3-4-a 追加)

### (7) リプレーを担当するオフィシャルがいないインスタント リプレー

☆ 従来、インスタント リプレーを採用する場合、公式規則第 12 篇を遵守しなければならないと規定され、インスタント リプレー担当者が必要であった。

★ 本年より、リプレーを採用する場合、公式規則第 12 編を遵守しなければならないが、以下の例外が認められ、リプレーを担当するオフィシャルがいない場合でもインスタント リプレーを採用することができ

る。

- ・ レフリーが最終決定者である。他の審判員 1 人を追加でレビューに参加させることができる。
- ・ レビューに使用する機器は、サイドラインおよびエンドゾーンに沿ったリミットラインの外側、かつチームエリアの完全に外側に設置されていなければならない。レフリーおよび追加クルーには、観客やサイドラインの関係者から離れた独立した安全な場所で、テントや類似の隔離構造物が提供されなければならない。
- ・ レフリーは、フィールドでコールされたすべてのターゲティングの反則について、試合を止め、レビューを行う。レビューを実施するために試合を止める他の方法は、公式規則 12-5-1-b に規定されている、ヘッドコーチのチャレンジによるものだけである。ヘッドコーチがレビューのためにタイムアウトを要求する場合、リプレーチャレンジフラッグをフィールドオブプレーに投げ入れなければならない。
- ・ ターゲティングの反則に対するレビューを除き、フィールド上の審判員はインスタントリプレーを始めることはできない。
- ・ ヘッドコーチは、チームにタイムアウトが残っており、チャレンジの権利も残っている場合、ターゲティングの反則に対するレビューを要求することができる。

## [2]2023年度・主な編集上の変更内容

2023年度に主な編集上の変更として検討している項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の( )内の英数字は、この変更が行われる予定の公式規則・公式規則解説書における主たる「篇章一条」を表します。

### (1) 腰より下へのブロックの規定の明確化

☆ 昨年度より、最初の位置が完全にタックルボックスの中に入っているラインマンは、スナップ直後のチャージで、タックルボックスの中で、横方向を含め正当に腰より下へのブロックをしても良いと規定された。

★ 本年より、最初の位置が完全にタックルボックスの中に入っているラインマンは、スナップ後の最初のチャージで、タックルボックスの中で、横方向を含め正当に腰より下へのブロックをしてもよい。(参照：例 1 および例 2)

また、腰より下へのブロックを行うプレイヤーの足等の一部がタックルボックスの中に入っていれば、タックルボックスの中でのブロックとみなされる。(参照：例 1)

本内容は、B チームのプレイヤーによる腰より下へのブロックについても同様となる。

(9-1-6-a および b 変更)

例 1

A チームの 25 ヤードラインで第 3 ダウン、10 ヤード。左タックル A77 はタックルボックスの中に位置した。デフェンス B55 はエッジラッシャーとして、スクリメージラインの近く、A77 のちょうど外側に位置した。スナップ後、A77 はパスプロテクションのために数歩下がり、B55 はパサーに向かってまっすぐに入った。B55 のスナップ後の最初のチャージの間に、A77 は、ニュートラルゾーンの後方で、B55 の横から腰より下へのブロックをした。A77 の片足は、ブロックを始めたとき、タックルボックスの中にあった。

判定： A77 の正当なブロック。A77 のアクションは、スナップ後の最初のチャージとみなされ、相手の正面からの腰より下へのブロックの制限を受けない。スナップ後の最初のチャージの後の行為は、それが明らかなセカンド アクトである場合は、A77 の腰より下へのブロックは、タックル ボックスの中で、相手の正面からのブロックでなければならないという制限を受ける。

#### 例 2

A チームの 25 ヤード ラインで第 3 ダウン、10 ヤード。左タックル A77 はタックル ボックスの中に位置した。デフェンス B60 はスクリメージ ラインの近く、A77 の内側で、左ガードの正面に位置した。プレーは右方向へのスウィープが展開され、B60 がスナップ後の最初のチャージでプレーを追いかけたときに、A77 はスナップ後の最初のチャージで右の方に動き、B60 を横から腰より下へのブロックをした。判定： A77 の正当なブロック。A77 のアクションは、スナップ後の最初のチャージとみなされ、相手の正面からの腰より下へのブロックの制限を受けない。スナップ後の最初のチャージの後の行為に歩数は関係なく、セカンド アクトであるかどうかの判定となる。スナップ後の最初のチャージの後の行為は、それが明らかなセカンド アクトである場合は、A77 の腰より下へのブロックは、タックル ボックスの中で、相手の正面からのブロックでなければならないという制限を受ける。

## (2) フォワード パスの規定の明確化

☆ 従来、パサーの近くを横切るプレーヤーへボールを軽く放り上げることについての規定はなかった。

★ 本年より、パサーがボールを軽く放り上げることは、それが明らかに後方への放り上げでない限り、正当なフォワード パスと規定される。(参照:例 3) (7-3-1 変更)

#### 例 3

A チームの 25 ヤード ラインで第 1 ダウン、10 ヤード。QB A12 はショットガン フォーメーションについて。スナップの前に、外側に広く位置したスロット レシーバー A80 は A12 の方向に向かってモーションを始めた。ジェット スィープを展開するために、スナップに合わせて、A80 は A12 の前に入った。A12 はボールを空中に軽く放り上げた。しかし、これはジェット スィープのフェイクで、A80 は通り過ぎ、ボールにはタッチしなかった。A12 はボールをキャッチし、(a) 前方に走り、A チームの 40 ヤード ラインでアウト オブ バウンズに出た。(b) A88 にフォワード パスを投げ、A88 は A チームの 40 ヤード ラインでボールをキャッチし、その地点でデッドとなった。判定： A12 が軽くボールを放り上げたことは、それが明らかに後方への放り上げでない限り、正当なフォワード パスとみなす。(a) A12 へのフォワード パスの成功であり、プレーの結果、A チームの第1ダウンとなる。(b) A12 によるフォワード パスのキャッチは正当であるが、A88 へのA12のフォワード パスは、同一ダウン中の2回目のフォワード パスとなり、公式規則 7-3-2-dにより不正なフォワード パスの反則となる。

以上